

別記様式（第3条関係）

会 議 録（1）

会議の名称	第17回桶川市地域公共交通会議（書面会議）
書面会議基準日	令和4年2月21日（月）
主宰者の氏名	桶川市長 小野克典
議長の氏名	桶川市副市長 堀口守
出席者氏名 （委員）	第1号委員：堀口守 第2号委員：渡部学、田沼健一、山科和仁、鈴木貴大、野口佳一 第3号委員：熊谷恵一、佐藤学 第4号委員：関根肇 第5号委員：藤田貢 第6号委員：吉田耕造、岡野千枝子、岩崎隆志、新妻亮、手島文子、 谷健治 第7号委員：清家裕之 第8号委員：金子秀和 第9号委員：岡村敏之、渡邊正、斉藤昌美、築井功次郎、根岸甚高、 沖田圭一
欠席者氏名 （委員）	なし
議 題	
	<p>【確認事項】</p> <p>（1）前回会議の会議録の確認 （2）前回会議の振り返り</p> <p>【報告事項】</p> <p>（1）市内循環バスの利用状況について （2）乗降調査結果について （3）試験運行ルートに関する意見等について</p> <p>【協議事項】</p> <p>（1）市内循環バス運転手アンケートについて （2）試験運行ルートに関する意見等に基づく検討について （3）桶川市の公共交通のあり方について</p> <p>【その他】</p> <p>（1）今後のスケジュールについて</p>

配布資料

- | | | |
|---|-------------------|------------------------------|
| ○ | 委員名簿 | |
| ○ | 会議録（第16回地域公共交通会議） | |
| ○ | 資料1 | 前回会議の振り返り |
| ○ | 資料2 | 市内循環バスの利用状況（令和2年度・令和3年度）について |
| ○ | 資料3 | 乗降調査結果について |
| ○ | 資料4 | 試験運行ルートに関する意見等について |
| ○ | 資料5 | 市内循環バス運転手アンケート調査票（案） |
| ○ | 資料6 | 試験運行ルートに関する意見等一覧表 |
| ○ | 資料7 | 桶川市の公共交通・移動支援 |
| ○ | 資料8 | 今後のスケジュールについて |

会 議 録 (2)

委員からの意見

意見者	意見内容
	意見の概要は、別紙のとおり (会議録署名人は、新妻 亮 委員とする。)

令和4年4月18日

会議録署名人 新妻 亮 _____

第17回桶川市地域公共交通会議（書面会議）での意見の概要

① 【協議事項】（1）市内循環バス運転手アンケート調査について	
A	危険箇所については、①道路構造と②停留所に分けたほうが良いと思います。
B	調査票（案）の（1）について、運転したことがないルートは未記入としているが、「×」印をしてもらう等により、記入漏れと判別できるようにしたらどうか。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者等、身体的弱者の乗降時に配慮していることはありますか。 ・ 視覚障害者等は優先席を有効利用していますか。 障害者の人権尊重の観点から、上記2項目を考えました。
D	（1）の設問で頻繁に遅れが発生する路線が判明した場合に、原因をどのように確認していくのかを事前に検討しておく必要があると思います。
E	燃料高騰による車両のサイズなどの見直しについて
F	設問（1）では、「遅れが生じやすい場所／時間帯、遅れの原因などについて記してください」というような欄をルートごとに設定しても良いかと思います。運転手だけでなく、事業者の担当者にも同じように回答いただいても良いと思います。
G	<ul style="list-style-type: none"> ・（1）～（3）の状況になった際の対応策を知りたい。 ・（4）の状況を発見した際の報告フローがあれば知りたい。

② 【協議事項】（2）試験運行ルートに関する意見等に基づく検討について	
A	不満だけでなく改善方法を示していただいている意見には検討が必要だと思います。特に④の意見には現地調査も含めて検討するべきだと思います。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車に乗れない高齢者が鈴木医院に行くのにルートが無いと困っているとのことです。 ・ 西20のバスが桶川駅9：35、次が13：35で間がありすぎるので何とかしてほしい。 以上の話を何人もの人から聞いています。 例えば、午前中2本、午後2本位、鈴木医院の前で止まるようなルートを考えていただけると、多くの高齢者の助けになると思います。
C	市役所への乗入れについては、民間の路線バスとの競合を回避するため見直したと理解しています。 市民からの意見を踏まえた検討を行う場合には、民間バスへの影響を十分検討する必要があると思います。

	<p>民間の路線バスと運賃を同一にすれば、競合は回避できるかもしれません。利用者の負担を同一にしても、民間の路線バスの収入が減らないよう補助する等、検討することも必要ではないか。</p>
D	<p>意見等の区分で、ルート、バス停に関する意見は全体の56%を占め、関心の度合いが高いことが分かります。西側地域のルートについては、乗客の用務が市役所や医療機関の利用が多いにも関わらず、用務ルートに循環バス空白地域がある等の課題が見られる。</p> <p>課題解決は大変難しいが、地域の特性に合わせてルートを再設定し、民間バスと循環バスが調整を図り、減便せず利便性を上げ、収益向上につなげることはできないか。</p> <p>調整には、運行ダイヤ、運行間隔等の調整により経営効率化を図る。また、利用者に分かりやすいように、運行を15分～20分に1本の等間隔として、経費削減を図ったらどうか。</p> <p>目的は公共交通サービスの維持である。</p>
E	<p>ご意見への対応は、試験運行ルート設定時の基本的考え方と照らし合わせ、乗降データ等により客観的に検証していくことが重要である。ルートや停留所が廃止となったところは、過去の検討の際に客観データに基づき利用が少ないことを確認した上でルートを変更したものが多い。また、「不便になった」というご意見についても、その場所に行く頻度がその方や地域にとって高いかどうかまで考えると、それほどでもない場合もあるかと思う（例えば、市民が市役所に行く頻度は、一般的には多くはない）。高頻度で訪れる行先についてや、それまで多頻度で利用いただいていた利用者からの具体的ご意見（例えば、駅周辺に行く頻度が減った、買物で使えなくなった）は、ざっと見た限りではそれほど多くはないように思われる（ただし、個別に見ると切実な意見があるのも事実である）。</p> <p>その上で、例えば、片方向運行を両方向運行とした区間について、両方向での乗降データを、以前の片方向時と比較して、両方向運行となったことによる効果を数値として示すことが重要である。また、個々の停留所について見ると、大きく便数が減ったり、所要時間が伸びたりした箇所もあり、それらの箇所での試験運行の前後での乗降データを精査することにより、試験運行ルートの検証をすることが重要である。</p>
F	<p>西28「諏訪久保」バス停について、利用者からの意見が多く、今後検討対象になるかと思われませんが、当該停留所は、「桶川駅西口～けやき団地～北里大学メディカルセンター線」と競合することから、路線バスへの影響を考慮いただきますようお願いいたします。</p>

③ 【協議事項】（３）桶川市の公共交通のあり方について	
A	上尾市を含め、近隣自治体との連携についても検討したらどうか。
B	<p>【効果的な取組など】 タクシーやバスは第２種運転免許が必要だが、2006年の道路運送法の改正で、過疎地などの移動手段を確保する交通空白地運送や障害者らを対象にした福祉輸送は、国に登録すれば第２種免許がなくても有償で送迎できる制度が導入された。</p> <p>この制度を酒屋等の食料品配達やNPO団体等に働きかけて公共輸送を確保する。</p> <p>【理由】 市内の地域や地区によっては、人口減や過疎化的なところも見受けられる。これらの地域等の路線網の見直しが急務で、さらにローカル路線の維持をどうするか、路線廃線を含めて検討しなければならないと思う。</p> <p>その時の対応策の１つとして、上記制度の取組はどうだろうかと考える。</p>
C	この資料のみで意見を申し上げるのは難しいが、タクシーのみならず、介護タクシー、福祉有償運送、訪問型サービスDについても、一覧となる情報を本会議で提示したことに意味がある。22年度の会議では、本会議のメンバーの事業者からだけでなく、上記の事業者の状況も事務局から適宜情報提供をいただけるとありがたい。
D	<p>【効果的な取組など】 デマンド交通の導入</p> <p>【理由】 他の民間交通との競争をできるだけ避けた上で、かねてより市民要望の多い、交通空白を埋める「デマンド交通導入」への議論を加速すべき。</p>
E	<ul style="list-style-type: none"> ・妊産婦の移動支援 ・子育て世代の移動支援 ・ライドシェア

④ ①～③以外について	
	なし